

0832

35

四
非
鉄
金
属

1765

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

ニ日本鑛業、三菱鑛業、古河鑛業、住友鑛業、昭和鑛業各社何レモ自山鑛ノ増掘ニ努メ、又前年來引續キ外国鑛石（智利、比島、加奈陀）ノ輸入ニヨル原銅増産ヲ圖リツツアリ。更ニラサエ工業（最近第二選鑛所完成、十四年春製鍊所、電鍊工場完成豫定）、石原産業（紀州三和

註、十三年一月―八月実績六千噸

年次	生 産 高			合 計
	国産鑛石ニ ヨル精銅	内地屑銅	輸入鑛石ニ ヨル精銅	
十三年	八〇〇〇〇	三〇〇〇〇	二八〇〇〇	一三八〇〇〇
十四年	八五〇〇〇	三〇〇〇〇	二六〇〇〇	一五一〇〇〇
十五年	九〇〇〇〇	三〇〇〇〇	六〇〇〇〇	一八〇〇〇〇
十六年	九五〇〇〇	三〇〇〇〇	七〇〇〇〇	一九五〇〇〇

一 銅

（單位 噸）

鑛山銅鑛増掘、近ク四日市ニ銅製鍊所建設ニ着手等ノ進出アリ。産
 銅増加ノタメニハ假令国内銅鑛資源貧弱ナリトヘ云へ、小鑛山ニ至ル
 マテモコレカ開發ニ努メサルヘカラス。且ツ国内鑛山ノ増産ニヨル産
 銅高ノ増加ハ國際收支ノ上ヨリスルモ元ヨリ望マシキ事ナリ。然乍ラ
 凡ソソノ増産ノ程度ニハ限りアリ。從テ不足分ヘ輸入ニ待ツコトナ
 ルモ、電氣銅ノ輸入ニヨルカ銅鑛ノ輸入ニヨルカヲ決定スル必要アリ。
 近年ニ至ルマテ水曜會系ノ大産銅業者カ自己ノ利益ニノミ捉ハレテ、
 専ラ電氣銅ノ輸入ニヨリタルカ如キハ極メテ遺憾ナリ。殊ニ金ノ増産
 ニ努メサルヘカラサル今日、金鑛ヲ培用鑛トシテ用フル乾式製鍊所向
 銅鑛ノ輸入ハ緊喫事ナリト思料ス。
 前掲「輸入鑛石ニヨル精銅」ノ項ヘコノ意味ニ於テ十四年以降ハ希望
 数字ヲ掲ケタリ。(但シ十三年ハ物動計畫ニヨレリ。)主要各社ノ産
 銅能力ハ凡ソ次ノ如シ。

尙ホ海外市場ト絶縁セル今日、銅建値引上ニ就テハ産銅業者又ハ賣銅業者ヨリ熱心ニ希望セラレ居リ、殊ニ賣銅業者ニアツテハ今日ノ電銅建値カ恰モ賣銅業者ニ對スル一種ノ牽制ヲ意味シ徒ラニ産銅業者ノミヲ利スルタメノモノナリトスル意見ヌラアリ、モシ電銅建値引上ニヨツテ低品位銅カ採算圏内ニ入り、増産可能ノ見透シ確實トナラハ速カニ引上クルカ得策ナリ。又過去ノ實狀ニ鑑ミ、好景氣後ノ反動ヲ恐レ

會社名	原銅月産能力
日本鑛業	二九〇〇 應
三菱鑛業	一〇〇〇 "
古河鑛業	一〇〇〇 "
住友鑛業	一〇〇〇 "
昭和鑛業	一〇〇〇 "
ラサ工業	(建設中) 一〇〇〇 "
石原産業	(未着手) 六〇〇 "

テ、現ニ産銅業者カ積極的ナリトハ言ヒ難ケレハ、コノ點ニ関スル政
府ノ援助必要ニテ、建値引上ト相待ツテ産銅力ハ明カニ伸長スルニ至
ルヘシ。

≡ 今日含銅硫化鉄鑛ノ九八%ハ同時ニ金鑛處理ヲ行フ乾式製鍊ニヨレリ。
（從テ乾式製鍊ハ經費ヨリ安ク、利潤大ナリ。）残りノ二%ハ濕式（
ラメーン式）收銅法（大阪製鍊會社）ニヨルモノナリ。含銅硫化鉄鑛
ノ成分ハ次ノ如シ。（カリニ含銅品位三%トセハ次ノ如クナル。）
銅三%、硫黄四〇%、鉄四〇%、亞鉛〇・五%、コバルト〇・〇五
%其他

乾式製鍊法ハコノ中前二者ヲトルニ止マリテ、残り三者ハコレヲ收得
セス、之ニ反シテ濕式ハコノ五者ヲ悉ク收得ス。国家資源上ヨリミル
モ、濕式（ラメーン式）收銅法ノ採用必要ナリ。從テカリニ富鑛ハ乾
式、貧鑛ハ濕式ニヨルト大別シテ政府ノ適當ナル助成ヲ行フコト緊要
ナリ。（註）

註、獨乙ハ既ニラメーン式製鍊爐二〇數基ヲ擁シテ世界最大ノ規模

ノ下ニ操業シツツアリト言フ。尙前揚（鉄鋼）銅熔鑛爐鑛滓中ノ鉄、
亞鉛含有ニカンスル表参照ノコト。

企 畫 院 案

（單位 應）

年 次	現在能力	昭十三年	十四年	十五年	十六年
生 産 高	九四二一〇	一二〇二〇〇 (一三三三〇〇〇)	一二八一八三	一四九七五七	一七九〇〇〇

註、（ ）内物動計畫「總供給額」

鉛ニ関シテハ善隣滿洲国ニ待ツトコロ大ナリ。前掲滿洲国ヨリノ輸入ハ同国修正五ヶ年計畫ニ基キテ計上セリ。十三年度物動計畫ニヨレハ、十三年度ニ鉛鑛石ヲ滿洲国ニ待ツトトナリ居レルモ不可能ナリ。

企 畫 院 案

(單位 應)

年 次	現在能力	昭十三年	十四年	十五年	十六年
生 産 高	一六四九二	二二、二一三 (三四、三〇〇)	二六七八五	三三、六二五	三三、五五〇

註、() 内物動計畫「總供給額+国内増産額」

一 亞鉛

(單位 應)

三 菱 鑛 業	會 社 名	月 產 能 力	生 產 高					年 次	
			合 計	回 收 分	故 亞 鉛	鑛 石 分	第 三 國 輸 入		滿 洲 國 輸 入
直 島	細 倉	七 五 〇 〇 應	六 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一	六 〇 〇 〇	一	四 三 〇 〇 〇	十 三 年
			六 五 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一		八 五 〇 〇	四 六 〇 〇 〇	十 四 年
			七 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一		一 〇 〇 〇 〇	四 八 〇 〇 〇	十 五 年
			九 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一		三 〇 〇 〇 〇	四 九 〇 〇 〇	十 六 年

セリ。

企 畫 院 案

(單位 應)

生 産 高	年 次	現 在 能 力	昭 十 三 年	十 四 年	十 五 年	十 六 年
四 七 〇 七 五			五 五 八 〇 〇 (六 五 八 〇 〇)	七 〇 一 〇 〇	八 八 〇 〇 〇	九 五 〇 〇 〇

註、(一)内物動計畫「總供給額+国内増産額」

高 産 生 合 電 錫 計	年 次		
	十三年	十四年	十五年
四〇〇〇	四二〇〇	四五〇〇	四八〇〇
二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
二〇〇〇	二二〇〇	二五〇〇	二八〇〇

ニ 主要錫鑛山

三菱明延鑛山 (兵庫)

錫山鑛山 (大分)

尾平 (大分)

見立 (宮崎)

藏内尾平 (鹿兒島)

古河足尾銅山※ (栃木)

※見立ノ錫鑛ハ馬來ニ輸出サレ居リシモ、最近日本曹達ノ手ニ入リ、国内ニ於テ精鍊サルルコトトナレリ。

足尾ハ從來煙塵カラ足尾メタル(錫・鉛合金)ヲ作り、最近コノ一部ヨリ更ニ錫ヲ分離、精錫ヲ製鍊中ナリ。

錫ノ増産計畫ニハ見ルヘキモノナク、極メテ寒心スヘキ状態ナリ。コ

ノ上ハ高品位ヲ要求セララルモノニ就テハ新錫ヲアテ、純粹度左程嚴密ナラサルモノニ関シテハ極力電解錫ヲ使用スルコト必要ナリ。電解錫ノ回收率ハホホ一・五%（從前一・六一・七%）ニシテ相當多量ノブリキ屑ニ對シテ回收額僅少ナレト、電解屑ハ製鋼用鉄屑トシテ使用セラレ、且又國際收支ノ上ヨリミルモ、ブリキ屑ニヨル輸入有利ナリト思料ス。

尙國內ブリキ屑ニヨル電解錫ハ次ノ如ク推定セリ。ブリキ使用量年二〇万噸、コノ中八%カ屑、ソノ九〇%即チ一・四万噸カ電解錫回收用ニ向ケラレルモノトシテ電解錫二一〇噸ヲ得ルモノトセリ。

企 畫 院 案

(單位 噸)

年 次	現在能力	昭十三年	十四年	十五年	十六年
生産高	一六七二	二四〇〇 (四四〇〇)	二六五〇	二八五〇	三三〇〇

註、() 内物動計畫「總供給額」

日本ニッケル	會社名
一廳(三廳ニ擴張中)	日産能力
群馬縣三波川鑛床	原鑛名

ニ

高 産 生			力 能 産 生			年 次
合 計	回 收 分	輸 入 鑛 石 分	合 計	輸 入 鑛 石 分	国 内 鑛 石 分	
一 六 一 〇	一 一 五 〇	一 五 〇	一 三 八 〇	九 九 〇	三 九 〇	十三年
二 二 五 〇	一 一 五 〇	四 八 〇	四 四 五 五	一 三 二 〇	三 一 三 五	十四年
三 五 三 〇	一 一 五 〇	八 〇 〇	三 一 〇 〇	一 六 〇 〇	三 五 〇 〇	十五年
四 三 四 〇	一 一 五 〇	一 〇 〇	二 一 九 〇	六 〇 〇 〇	四 〇 〇 〇	十六年

一ニッケル (鑛石ヨリ直接フェロニッケルトナスモノヲ含マス) (單位廳)

金属ニツケルニ関シテ、国内資源ニ乏シキ我カ非鉄金属中特ニ海外

東邦金属製錬	昭和鑛業	三菱鑛業	日本鑛業	住友金属	東洋ニツケル	鴨川ニツケル	日本曹達
工場台湾花蓮港附近建設中 第一期計畫年産ニ〇〇〇噸	原鑛石月一千噸處理計畫中	東京三菱鑛業所處理試験完了計畫中	一噸(十三・六月完成)	一噸(十四・春完成豫定)	試験工場(十三・七月完成) 後日産〇・五噸ノ計畫(十四・四月完成豫定)	試験工場(月産五噸)(十三・八月完成) 後日産三噸ノ計畫	二噸(十三・六月完成) 三・(十四・六月擴張完成豫定)
ローデシア鑛石	南アフリカローデシア天龍夏海	セレベス島	ニューカレドニア (大分縣松岡ノ鑛石調査中)	ニューカレドニア及セレベス島内地鑛石	静岡安倍川鑛石	千葉、鴨川鑛石	ニューカレドニア 大屋鑛山

依存ノ危険性尖鋭ナリ。相當高品位ノ海外ノ鑽石ニ頼ル時モ採算極メテ困難ニテ、例ヘハニューカレドニアノ原鑽石、カリニ二ノモノ日本着應當リ四五円トスレハ、金属ニツケル一應ヲ生産スルニ実收率一〇〇トシテ原鑽石五〇應、價格二、二五〇円トナル。硫酸法ニヨルモノトシテ硫酸一五應、應當リ二〇円トシテ計三〇〇円ヲ要シ、採算窮屈ナリ。シカモ硫酸ハ三一四トニ薄メラレ回收ハ問題トナラス。亞硫酸法ニヨレハ使用後回收可能ト言ハルルカ、カカル技術的研究ト国内資源ノ一層ノ探査必要ナリ。(北海道日高国様似鑛、大分縣上鷲鑛長崎西彼杵鑛、高知、山口等ノニツケル鑛ニ就テ国家ノ補助ニヨル探鑛、採掘ヲ速カニ行フコト必要ナリ。)

企 畫 院 案

(單位 應)

生産額	現在能力	十三年	十四年	十五年	十六年
	1	(三〇〇〇)	二一五〇	三九八〇	五〇〇〇

註、一鑛石ヨリ直接フエロニツケルトナスモノヲ含マス。
二()内物動計畫「總供給額+国内増産額」